



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

## 知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 4214 号 2018.2.16 発行

広島) 介護する人に支えを 17日に講演会

朝日新聞 2018年2月16日



児玉真美さん(左)と重度障害のある長女の海さん=呉市、児玉さん提供

高齢者や障害者ら身近な人を介護(ケア)する人「ケアラー」をめぐる問題を考える講演会が17日、広島で開かれる。一般社団法人「日本ケアラー連盟」(事務局・東京)と「広島 重い障害をもつ人の生活を考える会」が共催する。

「ケアラーが『助けて』と言える社会をめざして」と題して、同連盟代表理事の堀越栄子・日本女子大教授が講演する。

高齢者や障害者を介護する人が社会から孤立し追い詰められるケースなどが社会問題化する中、同連盟は2010年に設立された。ケアラーを「家族などの無償の介護者」と定義し、介護される側とする側の双方が尊重され、無理なく介護を続けられる環境の整備などをめざしている。

17日午後2～4時、広島市中区加古町のJMSアステールプラザ4階(中区民文化センター会議室AB)。参加費500円。定員110人。申し込み不要。問い合わせは事務局(h.life.kensyu@gmail.com)へ。

### 背中を押した 主治医の提案

呉市在住で、この講演会の運営に携わる日本ケアラー連盟代表理事の一人、児玉真美さん(61)は、重度障害者の親の立場として「ケアをする人のケア」の重要性を訴える。「ケアラーがづらいと感じるほど外に助けを求めることは難しくなる。頑張らないと、と自分を追い詰めていく」

1987年の出産時にけいれんを起こして意識不明に。長女の海さんは重症の仮死状態で生まれた。生活は一変。仕事を辞め、全介助が必要な海さんにつきっきりになった。「ケアラーの多くは、あらかじめの準備もなくある日突然、思いもよらない事態が起きて巻き込まれていく」

病院でも、役所でも頭を下げてばかり。「お母さんが頑張らないと」。そんな激励がつかかった。これ以上無理だと思ったとき、「なんてひどい親なんだ」と自分を責め、更に頑張るしかなくなった。

療育施設から養護学校に通わせるのはどうか。海さんが小学校に上がるころ、主治医からそんな提案を受けた。抵抗があったが「何もかも一人ではできない。僕たちに手伝わせて」と背中を押された。様々な社会的サービスの利用を促したり、手を差し伸べてくれたりする人の存在は大きいと感じた。「あのままでは、娘か私のどちらか、または両方が死んでいた」

30歳になった海さんは平日は療育施設で過ごし、週末家に帰宅するという生活。児玉さんは、フリーライターとして問題を提起したり、支援のあり方について研究をしたりしている。

「広島ではまだ『支援』という、介護を必要とする人への支援までしかイメージされていないように感じる。ケアラー自身はもちろん、専門職や行政の方々にも、ケアラーへの支援という視点に気づいてもらいたい」（宮崎園子）



**障害児ケア 支え合う** 読売新聞 2018年02月16日  
医師らとの勉強会に向け、打ち合わせを行う中川代表（右、広島市東区で）

◇ここすまネットHP <https://www.kokosuma.com/>

◇たん吸引グッズや医師コラム掲載

広島市を中心に障害を持った子どもとその家族への支援を行うグループ「ここすまネット」が、活動の輪を広げるためにグループのホームページ（HP）を設立した。障害のある子どもがいる世帯がよりよい支援を受けられるようにする狙いだ。中川史代表（56）は「親の悩みを取り除き、助け合えるきっかけになれば」と気軽な相談を呼びかけている。（長尾尚実）

中川代表は、生まれつき脳性まひの影響で障害を持つ次男の修作さん（27）を育ててきた。入院、通院時も常に付き添いが必要で、夜中に何度も起きて修作さんの様子を確認するなど十分な睡眠が取れなかった経験を踏まえ、「障害のある子どもとその家庭を取り巻く環境をより良くしたい」と、2012年10月に同会を設立した。

会では、同様の状況にある世帯の親同士で、子どものケアへの悩みを共有する交流会を定期的に催している。医師や看護師、訪問看護の事業所の人々に自分たちが必要な支援について話す勉強会も開催。今月2日には、医師や事業所の職員など約100人を招いての情報交換の場も開いた。

HPは昨年11月に開設。会員の保護者がたんの吸引など子どものケアを行う際に便利なグッズを紹介したり、障害児の診療に携わる医師らが自分たちがケアの現場で感じていることなどのコラムを掲載したりしている。

近年、中川代表の元へは、日常的に在宅での人工呼吸器や胃ろうでの栄養注入などが必要な「医療的ケア児」を持つ親からの相談もある。医療の発達で、以前は出産直後に亡くなっていた超未熟児を救えるようになった。15年度の厚生労働省研究班の推計では、0～19歳の医療的ケア児数は全国で約1万7000人。

中川代表は「世代にあった支援を考えていかなければならない。子どもたちが安心できる環境をどうすれば整えられるか、まだまだ道半ばです」と話す。

### 強制不妊手術 補償求め意見書 宮城県議会

毎日新聞 2018年2月15日

障害者らへの強制不妊手術を認めていた旧優生保護法（1948～96年）をめぐる問題で、宮城県議会の全7会派が15日、国と県に対し、手術を受けた当事者に謝罪や補償をするよう求める意見書を提出することで合意した。意見書は3月の本会議で採択される見通し。地方議会が国や自治体に、このような意見書を出すのは全国で初めて。

仙台市内で同日あった強制手術を受けた当事者との意見交換会で明らかにした。相沢光哉県議（自民）は「与野党問わず国が補償制度を実現できるよう地方から声を上げていきたい」と話した。【遠藤大志】

### 虐待防止へ絵本出版目指す 5人の子育て奮闘の内田さん「悩む人を笑顔に」【福岡県】

西日本新聞 2018年02月16日

14歳から2歳まで5人の息子を育てるイラストレーターの内田八重さん（37）＝福岡市南区＝が、虐待防止啓発の絵本を出版しようとインターネット上で資金を集めるクラウドファンディング（CF）に取り組んでいる。「育児に悩む人が読んだ後に前向きになれる

るような内容。多くの人に手に取ってもらい虐待死をなくしたい」と支援を募る。



内田さんは2016年から、家族の日常を温かいタッチで描いた育児絵日記「コダカラカルタ」を写真共有アプリ「インスタグラム」に投稿中だ。

虐待防止啓発の絵本出版を目指す内田八重さん

内田さんが絵本の表紙に使う予定のイラスト

「さ 騒がしい毎日こそが宝物」「ゆ夕食はコース仕立てでございます」

一目見て分かりやすいようにイラストはかるた風にして、

5人の息子が楽しそうに遊ぶ様子や台所に立ちっぱなしで次々と夕食を作ったエピソードをカラーマーカーで描く。フォロワー（読者）は1万人を超える。

イラストの発信を始めたきっかけは、8年前に身近で起きた虐待死事件。母親が子どもを殺したことにショックを受け、防ぐために何かできないかを考えた。自らも23歳で子育てを始めた頃は、なぜ息子が泣きやまないのか分からず涙していた。5人の子育て経験を踏まえ「育児に悩むママがイラストを見て少しでも笑ってもらえれば」と思い、子どもが寝静まった後などの時間を使って描き始めた。

もっと多くの人に虐待防止を呼び掛けようと思いついたのが絵本の出版。目標金額は100万円で、500冊作り、支援者や医療機関、公共施設に献本する。内田さんは「子どもは親を愛しているから、自信を持って育児してほしい」という思いを絵本に込めるつもりだ。「読んだ後にわが子のために頑張れると思ってもらえたら幸せ」と話す。

CFの支援は3千円から受け付けていて、5千円以上で絵本をもらえる。支援金の募集期間は3月9日まで。



## 岡山で事業所解雇問題のセミナー 障害者本位の働き方考えて



山陽新聞 2018年2月15日

A型事業所の課題と役割について講演する中島教授

倉敷市内の就労継続支援A型事業所で起きた障害者の大量解雇問題を受け、事業所の抱える課題を探るセミナー（岡山県など主催）が15日、岡山市内で開かれた。障害者雇用に詳しい中島隆信慶応大教授が講演し、障害者本位で働き方を考えていくことが大切と訴えた。

中島教授はA型事業所について「国や自治体から支給される補助金を目当てにした事業参加が後を絶たない」と指摘した。その上で、補助金を賃金より低く抑えるスウェーデンの事例を説明しながら、賃金が多い事業所には補助金を増やし、障害者の所得アップにつなげるべきだと強調した。



健全経営に向けては「障害者の働き方を社会や既存の制度に合わせるのではなく、障害者の特性や能力に合わせた働き方を実現していくことが安定雇用につながる」と述べた。

A型事業所には、障害者が自立できるように就労訓練をして、一般企業に移行させる役割があるが、生産性の高い障害者を送り出した後の事業所は収益確保が難しくなるという矛盾点があると説明した。

経営者や自治体職員ら約100人が聴いた。経営改善の手法などについて意見交換するグループワークもあった

#### “叙勲の申請”持ちかけ現金受領 都職員を懲戒免職

テレビ朝日ニュース 2018年2月16日

東京都は、叙勲の申請を持ち掛けるなどで合わせて約580万円を受け取っていた職員を懲戒免職処分にしたと発表しました。

東京都によりますと、福祉保健局の課長代理(53)が去年9月までの3年間に叙勲申請のコンサルティングや医療法人に医師の紹介を持ち掛けるなどして合わせて6件、約580万円を受け取っていたことが分かりました。都は行為が悪質で公務員の兼業禁止規定に反するとして、課長代理を15日付で懲戒免職処分にしました。課長代理に叙勲の相談をした人の関係者が不審に思って都に問い合わせ、その後の調査で問題行為が次々に明らかになりました。受け取った金銭はまだ返済されておらず、都では警視庁に相談しているということです。

#### 高齢者宅など屋根雪下ろし 小松市が協力業者募る

中日新聞 2018年2月16日

小松市は、高齢者世帯など民家の屋根雪下ろしをするのが困難な世帯がある町内会に対して、補助金を交付している。業者への支払いに充てられるが、雪下ろしを担う建設業者は道路の除雪に奔走しており、市は他の業種にも間口を広げて協力業者を募っている。

補助金の対象は高齢者、重度の障害者、母子の各世帯で、一軒三万円を限度に交付される。町内会長がまとめて市長寿介護課に申請する。市は業者を紹介し、町内会長が手配する。



#### 屋根に雪が残る民家＝小松市内で

市は小松能美建設業協会の建設業者七社と瓦工事業者五社と連携してきた。今回の大雪を受けて新たに、市造園業組合と建設板金業組合、製材業者など異なる業種にも協力を呼び掛けた。

二〇一七年度は十五日までに七十五件の問い合わせがあったが、一五、一六年度の申請はゼロだった。担当者は「今回の雪を教訓に、協力業者をできるだけ多く把握し、今後に備えておきたい」と話していた。(竹内なぎ)

#### 「集団に適応できない…」発達障害の専門相談所

読売新聞 2018年02月15日

発達障害がある人の治療や就学、就職などの相談に応じる「福岡地域発達障がい者(児)支援センター Life(ライフ)」が1月下旬、福岡県春日市原町のクローバープラザ内に開設された。

政令市の福岡市を除く福岡地区19市町村の住民が対象で、すでに本人や家族から多くの相談が寄せられている。

発達障害を専門とする県の相談窓口は昨年夏まで、筑豊地区の田川市と、筑後地区の広川町にしかなかった。県は昨年9月に北九州地区のセンターを北九州市小倉南区に開いた

のに続き、今年1月25日にライフを開設した。運営は、社会福祉法人「こぐま福祉会」（小郡市）に委託した。



#### クローバープラザ内に開設されたライフ

ライフには、発達障害に詳しい相談支援専門員のほか、臨床心理士や社会福祉士が常駐。本人や家族が電話で予約したうえで来所すると、個室で事情を聞き取ってアドバイスするほか、希望があれば医療機関や福祉施設、受け入れに積極的な学校、企業なども紹介する。発達障害の疑いがある段階や、医療機関での診断がない場合でも相談に応じる。

事業開始から9日までの約2週間に、約40件の相談が寄せられた。林智香子センター長は「『何となく集団に適応できない』『言葉の覚えが遅い』などと感じたら、気軽に相談してほしい。少しでも生活しやすくなるよう、環境を整えていきたい」と話している。

開所時間は平日午前9時～午後5時。3月21日午前10時からクローバープラザで、本人や家族などを対象にした研修会を開き、センターの紹介や、発達障害の診断などを専門とする医師の講演を行う。定員120人で参加無料。問い合わせ、申し込みはライフ（092・558・1741）へ。（大森祐輔）

#### LGBTテーマに映画祭 名古屋・大須で18日、10本上映

中日新聞 2018年2月16日  
映画祭をPRする江尻さん（右）ら実行委のメンバー＝名古屋市中区大須2のシアターカフェで



性的少数者（LGBT）に関する映画を集めた「大須にじいろ映画祭2018」が十八日、名古屋市中区大須二の大須演芸場で開かれる。耳の聞こえない映画監督、今村彩子さん（38）＝緑区大高町＝が、聴覚障害があるLGBTの人に焦点を当てた映画「11歳の君へ～いろんなカタチの好き～」の一部も初上映される。

映画祭は二〇一五年に初開催し四回目。上映会などを開いているシアターカフェ（中区大須二）を経営する江尻真奈美さん（54）が、客の一人で女装している男性から「周囲から冷たい目で見られる」と悩みを聞いたのをきっかけに、「周りの理解が深まれば」と企画した。常連客らと実行委をつくり、原則、市内で初上映の作品を選んでいる。

今回は全十本のうち、「11歳の～」を、午前十時四十五分から上映。本編で登場する聴覚障害があるLGBTの五人のうち、男性の同性愛者であるゲイと、心と体の性が一致しないトランスジェンダーの二人の学校生活や恋愛、家族との関係をドキュメンタリーと再現ドラマで描いた部分を紹介する。

映画では、出演者がLGBTの何に該当するのかをあえて表記していない。今村さんは「ろうでLGBTとなると、描き次第では『私たちとは別世界の大変な人たち』と見られてしまう。その前に、私たちと変わらない人間として受け止め、それぞれの人柄を感じてほしい」と話す。上映後には、今村さんと出演者が登壇してトークする。

作品は他に、オーストラリアの同性カップルとその子どもの日常を追ったドキュメンタリーなど。一分弱～一時間までの五本から投票でグランプリを選ぶフィルムコンペティションもある。江尻さんは「普通に映画を見るつもりで、気軽に訪れてほしい」と話す。十七日はシアターカフェでの交流会もある。

上映時間や料金はホームページ（「大須にじいろ映画祭」で検索）を確認。（問）江尻さ

ん=090 (1237) 2705 (井本拓志)

### 国立長寿医療研究センター 新外来棟が完成 高齢者へ総合的治療 大府 / 愛知



毎日新聞 2018年2月15日  
完成した新外来棟＝大府市森岡町の国立長寿医療研究センターで5日撮影

大府市森岡町の国立長寿医療研究センター（鳥羽研二理事長）に新外来棟が完成し、14日オープンした。老朽化した旧棟を建て替え、新たに世界初の施設という「ロコモフレイルセンター」などを開設した。高齢者それぞれの状況に合わせた総合的な治療を目指す。

新外来棟は地上7階地下1階建てで、延べ床面積は1万6264平方メートル。25の診療

科を持ち、250人の医療スタッフがいる。

### 年金開始、70歳超も選択可能に 政府、高齢社会対策大綱を決定

西日本新聞 2018年02月16日

政府は16日の閣議で、公的年金の受給開始時期を70歳超も選択できるようにする方針を盛り込んだ高齢社会対策大綱を決定した。これを受け、厚生労働省は2020年度中の関連法改正を目指し、検討を始める。少子高齢化が進行する中、健康な高齢者は働き続け、社会の支え手になってもらう狙い。

大綱は65歳以上を一律に高齢者とみる考え方を見直し、年齢にかかわらず柔軟に働ける環境の整備を打ち出した。高齢者の体力的年齢が若くなっており、就業や地域活動への意欲も高いと指摘。「年齢区分でライフステージを画一化することを見直し、全世代型の社会保障を見据える」とした。

#### 高齢社会対策大綱の主な数値目標

項目	目標
60～64歳の就業率	2020年に67%
80歳以上の高齢運転者による交通事故死者数	20年に200人以下
65歳以上が被害に遭う振り込め詐欺認知件数	前年比減少
健康寿命	20年に1歳以上延伸、25年に2歳以上延伸
認知症サポーター	20年度末に1200万人
社会的な活動を行っている高齢者の割合	20年に80%

### 福祉エリアの機能強化 県障がい者支援プラン

岐阜新聞 2018年02月16日

岐阜県障害者施策推進協議会（会長・池谷尚剛岐阜大教授）は、第3回会合を開き、2018年度から3年間の県の障害者福祉施策の基本方針となる第2期県障がい者総合支援プランの最終案を承認した。岐阜市鷺山地区に置く障害者支援施策の拠点「ぎふ清流福祉エリア」の機能強化、福祉現場で働く人材の育成や障害者差別の解消の推進などを盛り込んだ。

プランでは、エリア内に障害者用体育館「（仮称）県福祉友愛アリーナ」を19年度に、障害者職業能力開発校を配置した「（仮称）障がい者総合就労支援センター」を20年度に整備する方針を示し、県中央子ども相談センター（同市下奈良）から移転して12月ごろに供用を始めるとした。手話言語の普及の推進や障害者の意思疎通を図る手段への支援も充実させる。

また、国の基本指針に基づき、プラン内に第5期障害福祉計画（18～20年度）と第



1期障害児福祉計画（同）を策定した。障害福祉計画では施設入所者2292人（県内46施設、16年度末時点）のうち、3・2%（74人）以上の入所者を自宅などで暮らす地域生活に移行、障害児福祉計画では児童発達支援センターを5圏域それぞれに開設することなどを目標とした。プランは県議会定例会で報告される。

### 虐待を受けた子に長期支援を 高知市でセミナー

高知新聞 2018年2月16日  
ペアレント・トレーニングの推進など虐待防止をテーマに議論を深めたセミナー（高知市の県立ふくし交流プラザ）

増え続ける児童虐待への対応を考える「子どもの虐待防止推進セミナー」がこのほど、高知市朝倉戊の県立ふくし交流プラザで開かれた。虐待を受けた子どもたちに関わる専門職らがシンポジウムを行い、心に傷を負った子どもに寄り添い、癒やしていく施設や里親の役割などを議論した。



### 【シネマレビュー】ぼくの名前はズッキーニ

産経新聞 2018年2月16日



ストップモーション・アニメーション映画「ぼくの名前はズッキーニ」の一場面 (C)RITA PRODUCTIONS / BLUE SPIRIT PRODUCTIONS / GEBEKA FILMS / KNM / RTS SSR / FRANCE 3 CINEMA / RHONES-ALPES CINEMA / HELIUM FILMS / 2016

フランスのジル・パリスの小説を、スイスのクロード・バラス監督がコマ撮りの人形アニメで映画化した意欲作。母が名付けた愛称のズッキーニが気に入っていたイカール少年は、母を亡くして養護施設に預けられる。そこにはさまざまな事情で親と一緒に住めない子供たちが暮らしていた。

児童虐待や育児放棄といった社会的な題材を、愛らしい表情とユーモラスな動きで巧みに描写。たこ揚げの影の具合など照明の使い方が絶妙で、コマ撮りならではの温かみが子供たちの心のひだを浮き彫りにする。人形アニメの表現力の豊かさに改めて感じ入った。全国公開中。1時間6分。(藤)

★★★★ (★5傑作 ★4見応え十分 ★3楽しめる ★2惜しい ★1がっかり ☆は半分)

### 問題ギャンブル対策センター大阪 ギャンブル依存相談拠点、民間開設 カジノ誘致の大阪に

毎日新聞 2018年2月15日

ギャンブル依存症などからの回復を支援している一般財団法人「ワンネスグループ」（本部・奈良県大和高田市）は14日、相談拠点「問題ギャンブル対策センター大阪」を大阪市住之江区の人工島・咲洲（さきしま）のアジア太平洋トレードセンター（ATC）に開設した。隣接する夢洲（ゆめしま）には、大阪府・市がカジノを含む統合型リゾート（IR）の誘致を進めている。同法人は「支援の手がそばにあることをアピールしたい」と強調する。

同様の拠点は横浜に次ぎ2カ所目。依存症の経験者が常駐して相談に乗り、セミナーを開くスペースも。

## 高ストレス者が多い女性福祉ワーカー

産経新聞 2018年2月16日

### ■看護師、介護士、保育士…「人命にかかわる緊張感」

看護や介護、保育の仕事に携わる女性福祉ワーカーは、他の職業に比べて高いストレスにさらされているとの調査結果を、民間調査会社のメディプラス研究所が運営する「オフラボ」が発表した。

全国14万人を対象に実施したストレス指数チェック「ココロの体力測定」によると、高ストレス者の割合が女性全体は16.2%であるのに対し、看護師は18.8%、介護士は20.2%、保育士は17%といずれも上回っていることが分かった。

1800人の女性にストレス要因を聞いたところ、福祉ワーカーの多くが「人命にかかわる緊張感」と答えている。こう回答した看護師の割合は56.3%と、その他の女性有職者の6倍以上に達した。「肉体的、体力的な負担が大きい」「女性が多い職場の人間関係の難しさ」を挙げる回答も多く、精神、肉体、対人関係と複合的なストレスにさらされる職場環境である傾向が分かった。

## 厚労省 自治体の福祉職と消防連携強化へ 実態調査も検討 毎日新聞 2018年2月15日

札幌市の自立支援住宅「そしあるハイム」で生活保護受給者ら11人が死亡した火災を受け、厚生労働省は15日、受給者の自立支援を担う自治体職員と消防との情報共有について、実態調査を行う検討を始めた。調査結果を踏まえ、消防との連携強化策を講じる考えだ。そしあるハイムは、社会福祉法に基づく無料低額宿泊所などに該当する可能性があるのに届け出ていなかった。こうした無届けの施設をケースワーカーが自立指導のために訪問した際、防災上の不備があれば、消防に情報の提供をしている。2009年に群馬県渋川市の無届け施設「静養ホームたまゆら」で受給者ら10人が死亡した火災を受け、厚労省が自治体に通知で要請していた。ただ、どんな場合に消防に情報提供するか明確でなかった。厚労省は連携の現状を調べた上で、防災に生かせる点検項目などを検討する。【熊谷豪】

## JR九州が無人化の方針を示している8駅

※各駅のカッコ内は2016年度の1日平均乗車人数



## JR九州の大分7駅無人化先送り、地元反発受け計画見直し 読売新聞 2018年02月16日

JR九州が、3月17日のダイヤ改正に合わせて計画していた大分市内8駅の無人化について、日豊線の牧駅を除く7駅での実施を先送りすることが分かった。16日に発表する。鉄道事業の合理化策として予定していたが、地元の反発で見直しを余儀なくされた。

無人化計画の対象は、日豊線の牧、高城、鶴崎、大在、坂ノ市の5駅と、豊肥線の敷戸、大分大学前、中判田の3駅。いずれも遠隔地でオペレーターが安全の確認などにあたる「スマー

トサポートステーション（SSS）とする方針だが、3月17日時点では牧駅だけの実施にとどめる。

JR九州の当初計画に対し、大分県盲人協会の衛藤良憲会長（67）は「視覚障害者の安全が保証されるのか極めて疑問」と指摘。同県の広瀬勝貞知事も2月5日の記者会見で、「地元の声をよく聞いてほしい」と、慎重な対応を求めている。

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も  
大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行

